

平成28年度全国学力・学習状況調査における熊谷市の結果の概要について

◇本市調査結果の概要◇

【教科調査の概要「全般」】

- 小学校国語A・Bは、一部の設問を除き、正答率が全国平均を上回りました。また、小学校算数A・B、中学校国語A・B、中学校数学Bは、半数以上の設問の正答率が全国平均を上回りました。
- 小学校は、算数よりも国語の正答率が高い傾向にあります。中学校は、数学Aよりも数学Bが高い傾向にあります。今後は、小学校の算数、中学校の数学Aの学力を高めていく手立てを計画的に講じていくことが必要だと考えております。

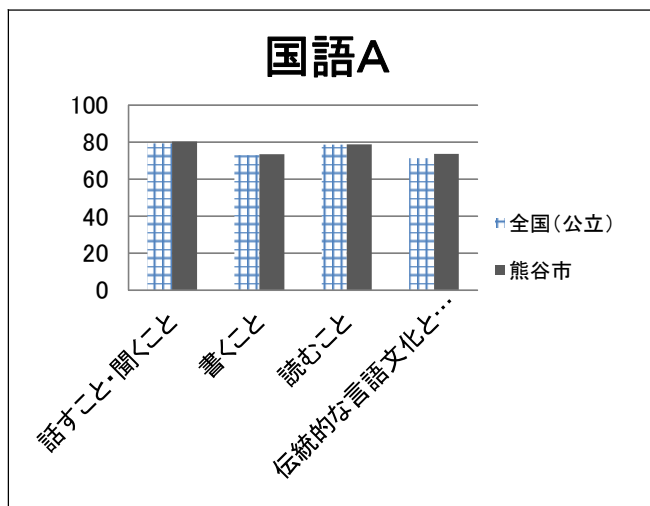
【教科調査の概要「国語」】

- 小学校では、「漢字を正しく読むこと」や「目的に応じて、図と表とを関係付けて読むこと」、「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」などが、よくできていました。
一方、「ローマ字の読み書き」や「グラフを基に、分かったことを的確に書くこと」、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと」などについては、課題が見られました。
- 中学校では、「相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話すこと」や「登場人物の言動の意味を考えて内容を理解すること」、「伝えたい事柄について、根拠を明らかにして書くこと」などが、よくできていました。
一方、「本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと」や「文章の構成や表現の仕方について、根拠を明らかにして、自分の考えを具体的に書くこと」などについては、課題が見られました。

【教科調査の概要「算数・数学」】

- 小学校では、「除法における計算の確かめの方法の理解」や「不等号の理解」「三角形の底辺と高さの関係についての理解」などが、よくできていました。
一方、「基準量と比較量の関係の理解」や「示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述すること」などについては、課題が見られました。
- 中学校では、「正の数と負の数の加法の計算」や「2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すこと」などが、よくできていました。
一方、「反比例のグラフ上の点の座標から、 x と y の関係を式で表すこと」や「与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明すること」などについては、課題が見られました。

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「話すこと・聞くこと」が約80%、「書くこと」が約74%、「読むこと」が約79%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が約74%でした。



●話すこと・聞くこと 問題②

どのように話し合っているのか、話し合いの説明として適切な選択肢を選ぶ問題の正答率は約80%でした。この結果から、「目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合うこと」への意識が高まっています。

●書くこと 問題③、④

ルール説明の表現について助言した内容として適切な選択肢を選ぶ問題の正答率は約68%でした。この結果から、「書き手の表現の仕方をよりよくするために助言すること」が課題となっています。

〈課題となっている問題例〉問題⑥

6

大森さんは、「おばあさんの飛行機」という物語を読み、登場するおばあさんがどのような人物なのかについて考えました。次の【大森さんの考え】をよく読んで、あとの(問い)に答えましょう。

【大森さんの考え】
編み物が大好きで、納得がいくまで編み物の模様をくふうするおばあさんという感じがする。

(問い) 大森さんは、自分の考えを友達に説明するために、根拠となる表現に………線を引きました。もう一度読むと、根拠となる表現が他にもあることに気がつきました。気がついた表現として最も適切だと考えられるものを、次の【物語の一部】の——部1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

●読むこと 問題⑤、⑥

案内図とパンフレットにある表とを関係付けて読み、希望に合う選択肢を選ぶ問題の正答率は約93%でした。

これに対して、文章を読んで、登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現として、適切な選択肢を選ぶ問題の正答率は約65%でした。この結果から、「登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えること」が課題となっています。

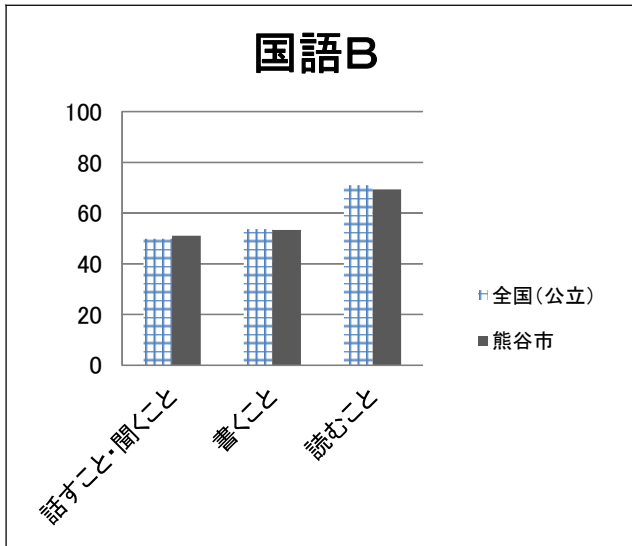
●伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 問題①、⑦、⑧

漢字の読み書きでは、「読み」が約88%、「書き」が約78%の正答率でした。「書き」の指導に、さらなる工夫改善が求められます。

また、ローマ字を書く問題の正答率は約52%、ローマ字を読む問題の正答率は約53%でした。この結果から、「ローマ字の習得と活用」が課題となっています。

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「話すこと・聞くこと」が約50%、「書くこと」が約54%、「読むこと」が約71%でした。

※ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、出題されていません。



●話の展開に応じて質問し、必要な情報を得る
インタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く問題の正答率は約48%でした。また、インタビューメモを作成した際の工夫した点として当てはまらない選択肢を選ぶ問題の正答率は約50%でした。

この結果から、「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問すること」や「目的に応じて、質問したいことを整理すること」が課題となっています。

●活動報告文を書く

「早ね早起き」活動の成果について、図1の結果を基に書いた内容として適切な選択肢を選ぶ問題の正答率は約44%でした。また、「早ね早起き」活動の課題について、図2の結果を基に書く問題の正答率は約54%でした。

この結果から、「グラフを基に、分かったことを的確に書くこと」や「目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書くこと」が課題となっています。

●将来なりたい職業について調べ、紹介する

「パン職人」に関する複数の資料の内容を関係付けてまとめたものとして適切な選択肢を選ぶ問題の正答率は約81%でした。

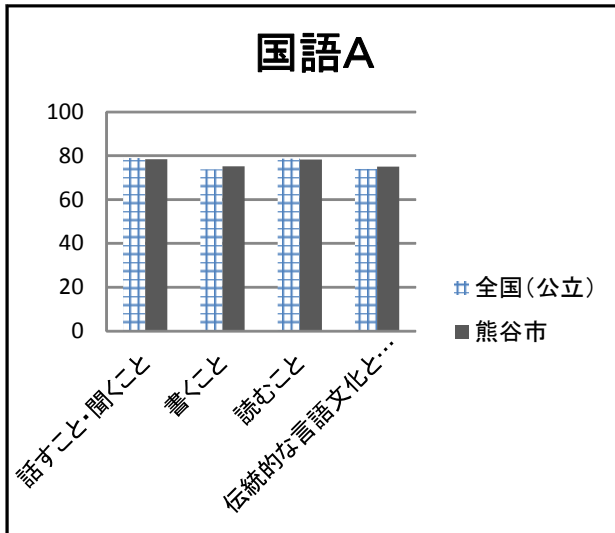
これに対し、「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く問題の正答率は約53%でした。

この結果から、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと」が課題となっています。

〈課題となっている問題例〉 2

この図は、国語Bの課題となっている問題例を示しています。上部には「早ね早起き」活動の成果に関するグラフ（図1）を基にした選択肢を選ぶ問題があり、下部には活動の課題に関する文章（図2）を基にした書く問題があります。各問題には、正解の理由や誤った選択肢の理由が詳しく説明されています。

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「話すこと・聞くこと」が約78%、「書くこと」が約75%、「読むこと」が約78%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が約75%でした。



〈課題となっている問題例〉 9

5 次は、世界的に有名な「サグラダ・ファミリア」を紹介する文章【A】と、それを書き直した文章【B】です。書き直した意図として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

【A】 「サグラダ・ファミリア」は、一八八二年からスペインで建設されている建築物です。私は、とても日本人が建設に大きく貢献していることを知って驚きました。

【B】 「サグラダ・ファミリア」は、一八八二年からスペインで建設されている建築物です。私は、日本人が建設に大きく貢献していることを知ってとても驚きました。

写真

参考〈建設中のサグラダ・ファミリア〉

- 1 主語と述語を近付けて、何がどうしたかを明確にしようとした。
- 2 並立の関係にある文節を近付けて、対等の関係にあることを明確にしようとした。
- 3 指示する言葉と指示される言葉を近付けて、何を指しているかを明確にしようとした。
- 4 修飾・被修飾の関係にある文節を近付けて、何を詳しく説明しているかを明確にしようとした。

●話すこと・聞くこと 問題1、5、7

電話を受けた相手のことを考えた言葉を書く問題の正答率は約93%でした。

これに対して、話合いを踏まえた発言として適切なものを選択肢から選ぶ問題の正答率は約61%でした。この結果から、「話合いで互いの発言を検討して自分の考えを広げること」が課題となっています。

●書くこと 問題2、4

伝えたい事柄について根拠を明らかにして書く問題の正答率は約80%でした。

これに対して、文章を直した意図として適切な選択肢を選ぶ問題の正答率は約67%でした。この結果から、「文章を読み返し、文の使い方などに注意して書くこと」が課題となっています。

●読むこと 問題3、6、8

登場人物の言動の意味を考えて内容を理解し、選択肢を選ぶ問題の正答率は約90%でした。

これに対して、文章について説明した選択肢を選ぶ問題の正答率は約68%でした。この結果から、「文章の構成や展開について考え、自分の考えをもつこと」が課題となっています。

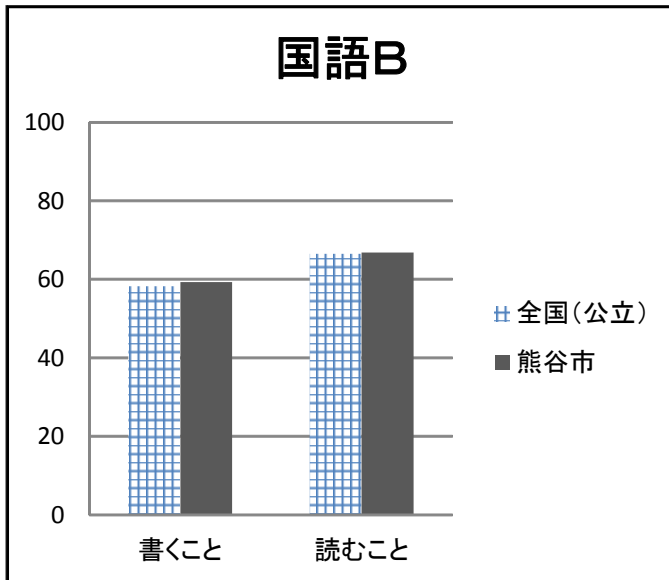
●伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 問題9

漢字の読み書きでは、「読み」が約92%、「書き」が約65%であり、「書き」の指導にさらなる工夫改善が求められます。語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題については、半数以上が90%台の正答率でした。

これに対して、文をわかりやすく書き直した意図を問う問題の正答率は約50%でした。この結果から、「文の成分の照応」が課題となっています。

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「書くこと」が約59%、「読むこと」が約67%でした。

※「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は出題されていません。



〈課題となっている問題例〉 ②

イ 必要な本の探し方 一つめ

必要本の探し方 二つめ

必要本の探し方 三つめ

ア 【雑誌の記事】を読んで、宇宙エレベーターについてあなたが疑問に思ったことを、「なぜ」、「どのような」に、「」のくわい」という言葉のいずれかを使って、二十字以上、四十字以内で一つ書きなさい。

イ アについて学校図書館で調べるときは、必要な本をどのように探しますか。本の探し方を二つ書きなさい。

三 高橋さんは、宇宙エレベーターについて疑問に思ったことを、学校図書館で調べることになりました。あなたなら、自分が疑問に思ったことを、学校図書館でどのように調べますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

●情報を読む

関連イベントへの参加についてちらしから読み取る選択式の問題の正答率は約83%でした。

これに対し、ちらし表と裏のそれぞれの表現の工夫とその効果を書く問題の正答率は約67%でした。この結果から、「文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書くこと」が課題となっています。これは国語Aの「読むこと」にも同様の課題が見られました。

●説明的な文章を読む

雑誌の記事の内容を情報カードにまとめる内容として当てはまるものを選択肢から選ぶ問題の正答率は約64%でした。

これに対し、記事を読んで疑問に思ったことと、その疑問を学校図書館でどのように調べるかを書く問題の正答率は約50%にとどまりました。この結果から、「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること」が課題となっています。

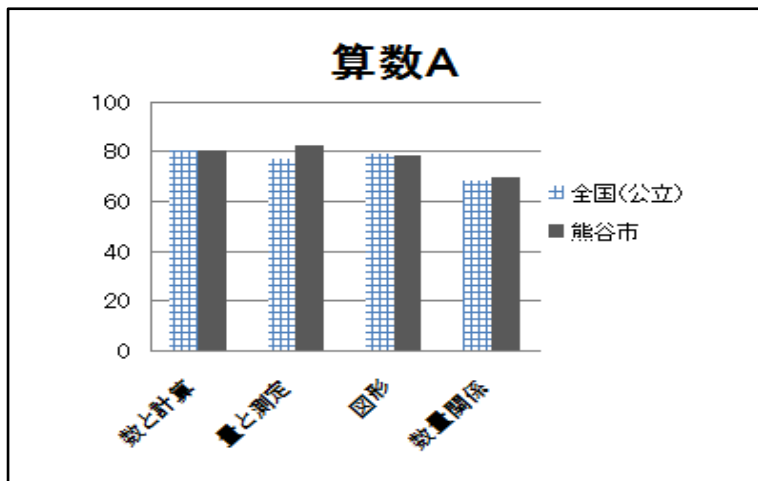
●情報を関連させて物語を読む

巳之助の様子を物語の展開に沿って選択肢を並べる問題の正答率は約72%でした。

これに対し、図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったかを書く問題の正答率は約61%でした。この結果から、「文章の構成や表現の仕方について、根拠を明らかにして、自分の考えを具体的に書くこと」が課題となっています。これは昨年度の国語Bと同様の課題です。

小学校算数A 主として「知識」に関する問題の調査結果【平成28年度】

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「数と計算」約81%、「量と測定」約83%、「図形」約78%、「数量関係」約70%でした。



●数と計算 問題1、2、3

不等号の理解についての問題の正答率は約97%でした。また、除法における計算の確かめの方法の理解についての問題の正答率は約89%でした。

しかし、 $\square \div 0$ 、8の商の大きさについての問題の正答率は約62%であり、「除数が1より小さいとき、商が除数より大きくなること」の理解が課題となっています。

●量と測定 問題4、5

三角形の底辺に対応する高さを選ぶ問題の正答率は約88%でした。また、 8 m^2 に14人座っているシートについて、 1 m^2 当たりの人数を求める式を書く問題の正答率は約77%でした。

●図形 問題6、7

4枚の三角定規でつくり出せる形を選ぶ問題の正答率は約81%でした。また、直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ問題の正答率は約76%でした。

●数量関係 問題8、9

前に10人、後ろに19人並んでいることを基に、列に並んでいる全体の人数を求める式と答えを書く問題の正答率は約81%でした。また、テープ全体の長さを基にしたときの赤い部分の長さの割合が、一番大きいものを選ぶ問題の正答率は約74%でした。

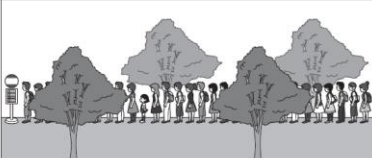
しかし、定員と乗っている人数の割合、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く問題の正答率は約54%であり、「1を超える割合を百分率で表す場面における、基準量と比較量の関係の理解」が課題となっています。

〈課題となっている問題例〉


9 場面の読み取りと立式、百分率

次の問題に答えましょう。

(1) バスに乗る人が、バス停に1列に並んで待っています。さゆりさんの前に10人、後ろに19人います。バス停に並んでいる人数は全部で何人ですか。求める式と答えを書きましょう。



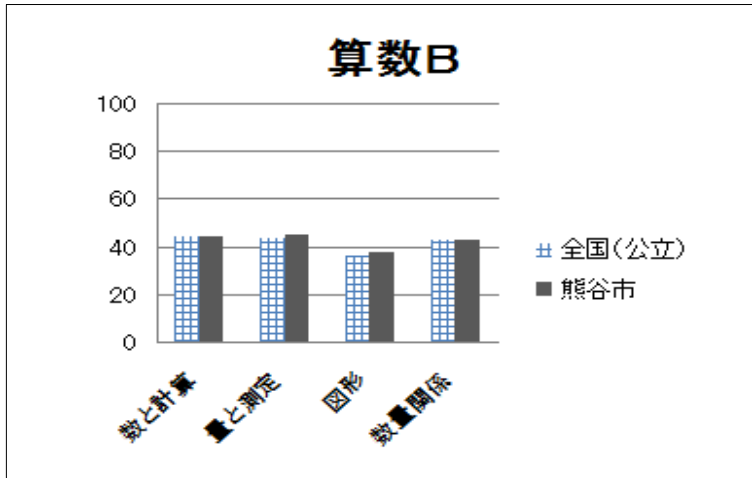
(2) バスに乗っている人数は60人です。乗っている人数は、定員よりも定員の20%多いようです。定員をもとにしたときの乗っている人数の割合を、百分率を使った次の図に表します。



図の中の75と100には、下の4つの数のいずれかが入ります。75と100に入る数をそれぞれ書きましょう。

| | | | |
|----|----|-----|-----|
| 20 | 80 | 100 | 120 |
|----|----|-----|-----|

領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「数と計算」約44%、「量と測定」約45%、「図形」約37%、「数量関係」約43%でした。



●数と計算 問題1、2、3、5

40mハードル走の目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く問題の正答率は約14%、縦39cm、横54cmの長方形の厚紙から、1辺9cmの正方形を24個切り取ることができのわけを書く問題の正答率は約37%であり、「示された式の中の数値の意味を解釈しそれを記述すること」や、「見いだした事実に対して数学的に考えて、その理由を記述すること」が課題となっています。

●量と測定 問題1、4、5

正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると面積が4cm²小さくなることの説明を書く問題の正答率は約48%でした。

「示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述すること」が課題となっています。

●図形 問題3、5

1辺が9cmの正方形に内接する円をかくために、コンパスの鉛筆の先を合わせる位置を選ぶ問題の正答率は約78%でした。

しかし、示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く問題の正答率は約8%であり、「示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述すること」が課題となっています。

●数量関係 問題2、4、5

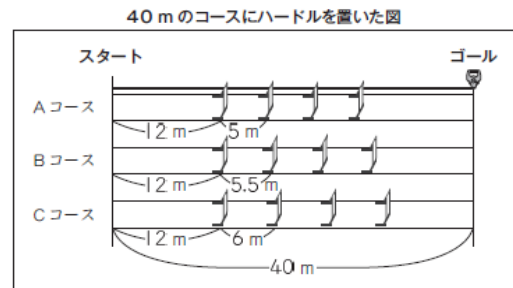
A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読み取った事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く問題の正答率は約25%であり、「グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述すること」が課題となっています。

〈課題となっている問題例〉

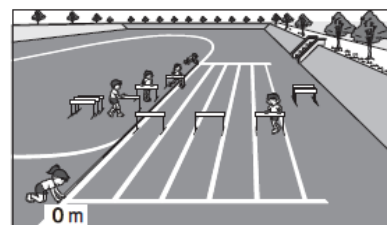
2 日常生活の事象における数学的な表現の活用と解釈（ハードル走）

体育の時間に、40mハードル走を行います。

次の図のように、ハードルとハードルの間がそれぞれ、5m、5.5m、6mになるようにハードルを4台ずつ置いて、40mのコースにA、B、Cの3つのコースをつくります。



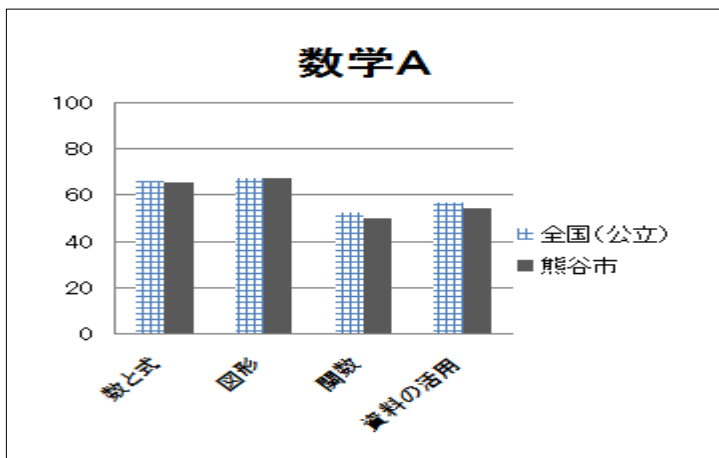
こうじさんは、ハードルとハードルの間が5mであるAコースの、スタート地点から4台目のハードルを置きます。



(1) Aコースは、スタート地点から1台目のハードルまでが12mで、ハードルとハードルの間が5mです。

スタート地点に、巻き尺の「0m」のところをあわせると、Aコースの4台目のハードルを置くのは、巻き尺の何mのところになりますか。求める式と答えを書きましょう。

領域ごとの調査結果(平均正答率)については、「数と式」約65%、「図形」約67%、「関数」約50%、「資料の活用」約54%でした。



●数と式 問題1、2、3

正の数と負の数の加法の計算問題の正答率は約91%、方程式 $2x+y=x-y=3$ から、 x と y の値を求めるための連立方程式を完成させる問題の正答率は約89%でした。

しかし、ある数を3でわると、商が a で余りが2になるとき、ある数を a を用いた式で表す問題の正答率は約30%であり、「数量の関係を文字式に表すこと」が課題となっています。

●図形 問題4、5、6、7、8

立方体の見取図を読み取り、2つの角の大きさの関係について、正しい記述を選ぶ問題の正答率は約78%、ひし形の対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表す問題の正答率は約78%でした。

しかし、与えられた方法で作図された直線についていえることを選ぶ問題の正答率は約32%であり、「垂線の作図の方法についての理解」が課題となっています。

●関数 問題9、10、11

比例の表を完成させる問題の正答率は約87%でした。

しかし、反比例のグラフから式を求める問題の正答率は約28%、反比例を表した事象を選ぶ問題の正答率は約39%であり、「反比例の関係になる具体的な事象における2つの数量の関係についての理解」や、「反比例のグラフ上の点の座標から x と y の関係を式で表すこと」が課題となっています。

●資料の活用 問題12、13

1から13までの数字が書かれた13枚のカードから5または11のカードをひく確率を求める問題の正答率は約79%でした。

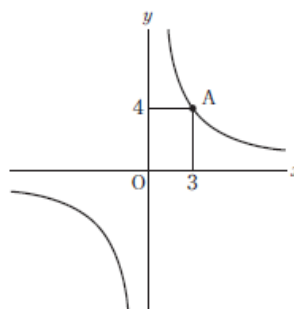
しかし、ある郵便物の重さについて、デジタルはかりで表示された値を基に、真の値の範囲を選ぶ問題の正答率は約31%、読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める問題の正答率は約45%であり、「測定値が与えられた場面における近似値と誤差の意味を理解すること」や、「資料を整理した表から最頻値を読み取ること」が課題となっています。

〈課題となっている問題例〉 9 反比例の意味とグラフ

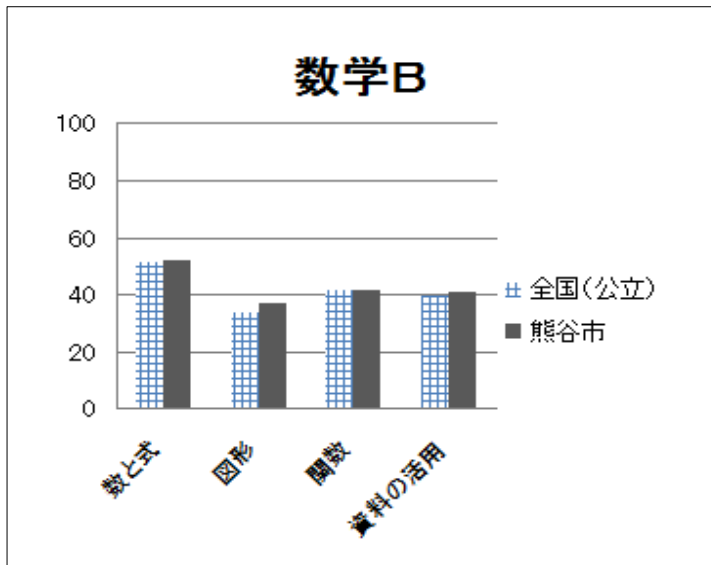
(3) y が x に反比例するものを、下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

- ア 1500 mの道のりを分速 x m で進んだときにかかる時間 y 分間
- イ 1辺の長さが x cm である正方形の面積 y cm²
- ウ 100 ページの本を、 x ページ読んだときの残りのページ数 y ページ
- エ 1冊80円のノートを x 冊買ったときの代金 y 円
- オ x m のリボンを3人で同じ長さに分けたときの1人分の長さ y m

(4) 下の図は、反比例のグラフで、点A(3, 4)を通ります。このとき、 y を x の式で表しなさい。



領域ごとの調査結果（平均正答率）については、「数と式」約52%、「図形」約37%、「関数」約42%、「資料の活用」約41%でした。



●数と式 問題1、6

1試合の時間を16分とするとき、1回の休憩の時間を求める問題の正答率は約82%でした。

しかし、文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する問題の正答率は約16%、葉月さんの提案を取り入れたとき、1試合の時間を求めるための方程式をつくる問題の正答率は約34%であり、「与えられた式を用いて問題を解決する方法を数学的に説明すること」や、「与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現すること」が課題となっています。

●図形 問題4

2つの辺の長さが等しい事を、三角形の合同を利用して証明する問題の正答率は約31%、 $DA : DC = 1 : 2$ のときの $\triangle DEC$ がどのような三角形になるかを説明する問題の正答率は約42%であり、「筋道を立てて考え、証明すること」や、「付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明すること」が課題となっています。

●関数 問題2、3

$x = 4$ のとき $y = 9$ になるように、 x と y の間の関係を書き加えることについて

正しい記述を選び、その理由を説明する問題の正答率は約18%、車の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、グラフの傾きが表すものを選ぶ問題の正答率は約28%であり、「加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明すること」や、「グラフの傾きを事象に即して解釈すること」が課題となっています。

●資料の活用 問題5

25. 5cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く問題の正答率は約34%、24. 5cmの靴を最も多く買うという考えが適切ではない理由を、グラフの特徴を基に説明する問題の正答率は約47%であり、「与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現すること」や、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」が課題となっています。

〈課題となっている問題例〉

6 問題解決の方法と式変形の過程の振り返り（数当てゲーム）

6 美咲さんは、数当てゲームを行うために、次の手順を考えました。

手順

- ① 最初に数を1つ決める。
- ② ①で決めた数に10をかける。
- ③ ②の数から8をひく。
- ④ ③の数を2でわる。
- ⑤ ④の数に14をたす。

この数当てゲームは、手順通りに求めた数（⑤の計算結果）を教えてもらい、その数から、最初に決めた数（①で決めた数）を当てる遊びです。

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) 最初に決めた数が5のとき、手順通りに求めた数を書きなさい。

(2) 美咲さんは、この数当てゲームを優太さんと行いました。

手順通りに求めた数は、30になったよ。

それなら、最初に決めた数は4だね。

どうしてすぐにわかったの。

簡単に当てる方法があるんだよ。

美咲さんは、手順通りに求めた数が30であることから、優太さんが最初に決めた数は4であることを当てました。どのようにして当てることができたのか、文字を使って、その方法を考えます。

最初に決めた数を a として、前ページの手順にしたがって計算すると、次のようになります。

- ① 最初に決めた数を a とする。
- ② $a \times 10 = 10a$
- ③ $10a - 8$
- ④ $(10a - 8) \div 2 = 5a - 4$
- ⑤ $(5a - 4) + 14 = 5a + 10$

最初に決めた数を a とすると、手順通りに求めた数は $5a + 10$ という文字式で表されます。手順通りに求めた数 $5a + 10$ から最初に決めた数 a を当てる方法を説明しなさい。

(3) 前ページの手順の⑤を変えて、手順通りに求めた数を5でわると最初に決めた数を当てることのできる新しいゲームを作ります。

- ① 最初に数を1つ決める。
- ② ①で決めた数に10をかける。
- ③ ②の数から8をひく。
- ④ ③の数を2でわる。
- ⑤

上の に当てはまる言葉として正しいものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア ④の数に4をたす。 イ ④の数から4をひく。
 ウ ④の数に10をたす。 エ ④の数から10をひく。

「学習指導改善のための今後の方策」

小学校国語

●主として「知識」に関する問題の調査結果から●

「話すこと・聞くこと」については、意見や情報を関係付けた話合いの仕方やモデルとなる話合いの仕方を提示し、これに基づいて複数の意見や情報を比較・分類・整理する活動を国語だけでなく、他教科等でも取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「書くこと」については、表現の仕方について助言する際に、具体的な視点（書き手の意図や考えの明確さ、読み手に分かりやすい表現や言葉遣い等）を提示し、これに基づいて書いたものをペアやグループで助言し合い、その後、学級全体でまとめる活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「読むこと」については、登場人物の人物像の捉え方（文章全体を通じた性格や考え方が分かる叙述の見つけ方等）を提示し、これに基づいて読むことで、複数の行動や会話を関連付けて人物像をまとめる活動や人物関係図を作成し、グループで助言し合う活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、日常的に文章の中で当該学年の配当漢字を使う機会を増やすことやローマ字を活用する場面を意図的に設定するなど、指導の充実を図ります。

●主として「活用」に関する問題の調査結果から●

「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する力」や「目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く力」、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む力」が高まるよう、複数の文章やグラフ等を関連させた読み取り方や、速読や摘読等の効果的な読み方を取り入れるなど、指導を工夫し、一人一人の言語能力を高めます。

中学校国語

●主として「知識」に関する問題の調査結果から●

「話すこと・聞くこと」については、スピーチや話合いなど、自分との相違点を考えながら聞き、必要に応じて質問などをして、自分の考えを広げていく活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「書くこと」については、身近な生活にあるちらしや広告、説明書などさまざまな形式の文章に触れ、その構成の仕方や効果的な伝え方を意識して、実際に作成する活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「読むこと」については、文章の構成を理解して文章の要旨を捉えたり、複数の資料から必要な情報を整理しながら読むといった活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、帯単元や小テスト等を行い、漢字を書けるように継続的な活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

●主として「活用」に関する問題の調査結果から●

「複数の資料から適切な情報を読み取り、根拠を明らかにして自分の考えを書く力」、「文章の構成や表現の工夫について、自分の考えを書く力」が高まるよう、国語の授業だけでなく、総合的な学習の時間など他の教科でも日ごろから様々な形式の文章を書く活動を取り入れたりと、学校図書館を積極的に活用するなど、指導を工夫します。

「学習指導改善のための今後の方策」

小学校算数

●主として「知識」に関する問題の調査結果から●

「数と計算」については、目的に応じて計算の結果の見積りをする場を適宜位置付け、計算の仕方や結果について振り返って判断できるようにするなど、指導の充実を図ります。

「量と測定」については、問題場面を図に表して数量の関係を捉え、立式につなげる活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「図形」については、例えば、立方体や直方体の面に三角定規を当て、辺と辺、面と面、辺と面の平行や垂直の関係を調べ、図形の構成要素の理解を深めるなど、指導の充実を図ります。

「数量関係」については、例えば、基準量を捉える場面を設け、その基準量よりも20%多い場合は、比較量は基準量の120%であることや、比較量は基準量の1.2倍であることを表現したり、説明し伝え合ったりする活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

●主として「活用」に関する問題の調査結果から●

日常生活の中から児童にとって必要感のある場面を取り上げ、その場면을数理的に捉えて問題を解決する学習を充実するなど、指導を工夫します。

中学校数学

●主として「知識」に関する問題の調査結果から●

「数と式」については、事柄や数量の関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、文字式に表す活動を取り入れるなど、指導の充実を図ります。

「図形」については、手順どおりの作図によって、何が作図できたのかを理解することができるようにするために、個々の手順で得られる点や線分の特徴を図形の性質と関連付けて読み取る場面を設定するなど、指導の充実を図ります。

「関数」については、例えば、反比例のグラフからx座標とy座標の値の組を読み取り、xとyの値の積が常に一定の値aになることを調べ、反比例が $y = \frac{a}{x}$ という式で表されることを確認する場面を設定するなど、指導の充実を図ります。

「資料の活用」については、近似値と誤差の意味を理解できるようにするために、測定値には誤差があり、真の値の近似値であることを、実感を伴って理解できるようにする場面を設定するなど、指導の充実を図ります。

●主として「活用」に関する問題の調査結果から●

文字を用いて処理した式を読み取り、問題解決の方法を説明することができるようにするために、処理の手順を数学的に考察する場面を設定するなど、指導を工夫します。